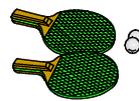




竹林の風

栃木県教育委員会事務局
河内教育事務所
平成21年2月2日
発行責任者 川村 滋

卓球 平野選手から学ぶ ~ 所長 川村 滋 ~



「会心の笑顔 平野（鹿沼出身）3連覇 全日本卓球女子シングルス」 - 平野早矢香選手の写真記事が先日紙面を飾った。決勝の相手は、元中国代表の王輝選手。一進一退の戦いを繰り広げ、最終ゲームも1 - 6とリードされた場面であったが、攻め方を変え逆転し死闘を制した。平野選手と言えば、これまで世界卓球、北京五輪で日本チームの中心選手として活躍した実績のある選手である。彼女は、ある時期猛練習に励むだけでなく、著名な古武術家や独特の人生哲学で知られる麻雀士を訪ね、卓球の世界にはない体の使い方や心構えの教えを請うてきたそうだ。今大会でも、相手を圧倒するほどの鬼気迫る表情や弱点を見抜く冷静な判断力を見せてくれたが、合点がいった。プロとして成長するためには、彼女のように、日々の鍛錬に加えて、異なる分野の人々の知恵を借りることも必要なのかと思う。

教職の世界においても然りである。学校という狭い枠の中で研鑽に励むだけでなく、時には、これまで生きてきたことと違ったことに挑戦し自己啓発をしていくことが大切である。そのことで、間口が広く奥行きのある発想や判断力など、教職のプロとしての力を鍛えることになるものだ。

ところで、今年の4月28日から横浜で世界選手権が予定されている。平野選手には、新たな経験を武器にして、今度こそ悲願のメダルをと期待したい。



新しい道德教育について 新学習指導要領への対応

新学習指導要領への必要な対応について、主だったところを3点にまとめてみたいと思います。

1点目は、「道德教育の全体計画」の作成についてです。

学校の全体計画が、関連図を中心としたものから、「誰が中心となって、いつ、どのようなことをするのか明確にし、より具体性をもったものになる」ということです。より詳しく、先生方が活用しやすいものにすることが大切になります。

2点目は、道德の時間の授業を公開することです。

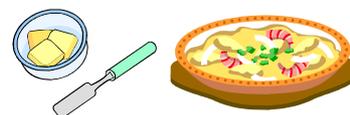
平成17・18年度研究指定の宇都宮市立中央小学校では、要請訪問や研究発表会等において、保護者への公開を積極的に行い、保護者の理解と賞賛、そして、参画・啓発が活発になされ、多くの効果が認められました。この例などが参考になると思います。

3点目は、道德教育推進教師の役割についてです。

道德教育推進教師は、道德の時間の充実と指導体制に関することなどについて、取りまとめ役、相談役、推進の中心になることが求められております。今までの道德教育主任の役割が強化されたとらえていくことが大切です。

近年、子どもの心のありようが大きな課題となっております。各校において心の教育の推進のため、道德教育の改善・充実を図るようよろしくお願いいたします。

食育推進の取組について



県教育委員会では「とちぎ教育振興ビジョン」の中で、毎日朝食を食べる児童生徒の割合を平成22年度までに86.8%にという推進指標を掲げています。その目標達成のための一つとして、平成19年度から、「朝食を題材とした家庭料理教室」を栄養教諭のご尽力と実施校のご理解をいただき、県内各地域で開催しています。

今年度、本地区では10月4日(土)と11月29日(土)の2日間、上三川町立北小学校で開催していただきました。

1回目は、9家族20名が参加し、きのこのバター炒め混ぜごはんや地元産のアスパラガスを使ったスクランブルエッグなど、2回目は、8家族17名が参加し、ピザ風ごはんや大根のみそ汁を親子で協力して料理し、楽しく会食をしました。また、会食後には栄養教諭からの「充実した朝食の大切さ」や「朝食欠食が体に及ぼす影響」を話題としたわかりやすい講話が行われ、参加した親子からは「朝食はすべてにおいて大切なものだということが改めてわかった。」「これからは朝食をしっかり食べるようにする。」などの意見が出ていました。

朝食には、脳にエネルギーを補給して活性化させたり、睡眠中に下がった体温を上げて身体を目覚めさせたりするなどの大切な役割があります。朝食の欠食は、昼食や夕食の摂取量が増えやすく、過食につながることや、間食が増えて栄養バランスが偏ってしまうなど様々な問題点があります。今後も、このような事業をとおして各関係者と連携しながら子どもたちの健やかな体の成長のために食育の推進を図っていければと思います。



【親子で協力して調理】



【ピザ風ご飯の会食】



【栄養教諭による講話】

総合型地域スポーツクラブ～“スポーツ”を通して地域のつながりを～

文部科学省は、平成22年度までに、全国の市区町村に少なくとも1つは「総合型地域スポーツクラブを育成する」としています。

この「総合型地域スポーツクラブ」は、スポーツ本来の「こころ」や「からだ」の健全な発達を促し、生命力や活力を与えるという特性を生かす事業です。これは、スポーツを取り巻く現状(国民の運動不足・子どものスポーツ実施の二極化)や地域における社会問題(少子高齢化社会・地域コミュニティの弱まり)を解決したり、健康で豊かなライフスタイルを構築したりするとともに、夢や生きがいのある社会の形成に重要な役割を担っています。

そこで、いつでも、どこでも、いつまでも、より多くの方が生涯を通してスポーツを楽しめる地域コミュニティとしての「総合型地域スポーツクラブ」の設立が求められています。

活動メニューは、スポーツに限らず、料理や書道、ゴスペルなど多岐にわたって取り入れられています。また、地域の人々が、受益者負担を原則(会員の会費を基)に、自ら運営するクラブです。活動拠点としては、地域内にある学校や公共施設、公園や広場などが考えられています。

県内には、設立準備中のクラブを含めて22市町に46クラブ(H20.12.1 現在)があります。宇都宮市には、NPO法人サンカルチャークラブ(今泉地区)、スポーツかわち「ship」(河内地区)、友遊いずみクラブ(泉ヶ丘地区)の3クラブと、設立準備中の2クラブ(横川地区・清原地区)の計5クラブがあります。また、上三川町には、設立準備中(上三川町全域)の1クラブがあります。



本紙についてのご意見ご感想をお待ちしております：E-Mail kawachi-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp